

山梨県立甲府工業高等学校

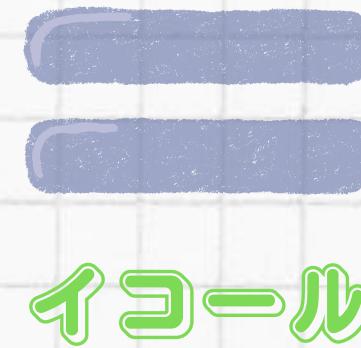
コミュニケーション・スクールのスタート

創りたい未来・育てたい生徒 心をひとつに

時代の変化に 対応するために



地域社会の
目標



甲府工業の
目標

どのような未来を創るのか?
どのような人材を育てるのか?

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて

◆なぜ今、**コミュニティ・スクール**と**地域学校協働活動**が必要なのか?

背景 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◆教育環境を取り巻く状況

- 児童生徒数の減少
- 子供の規範意識等への課題
- 学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆社会の動向

- 少子高齢化の進行
- グローバル化や情報化の進展
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

◆教育改革の動き

- 「社会に開かれた教育課程」の実現など

◆地方創生の動き

- 学校を核とした地域の活性化

求められるものとは…

- ◆これからの時代を生き抜く力の育成(学校だけでは得られない知識・経験・能力)
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として…

コミュニティ・スクール

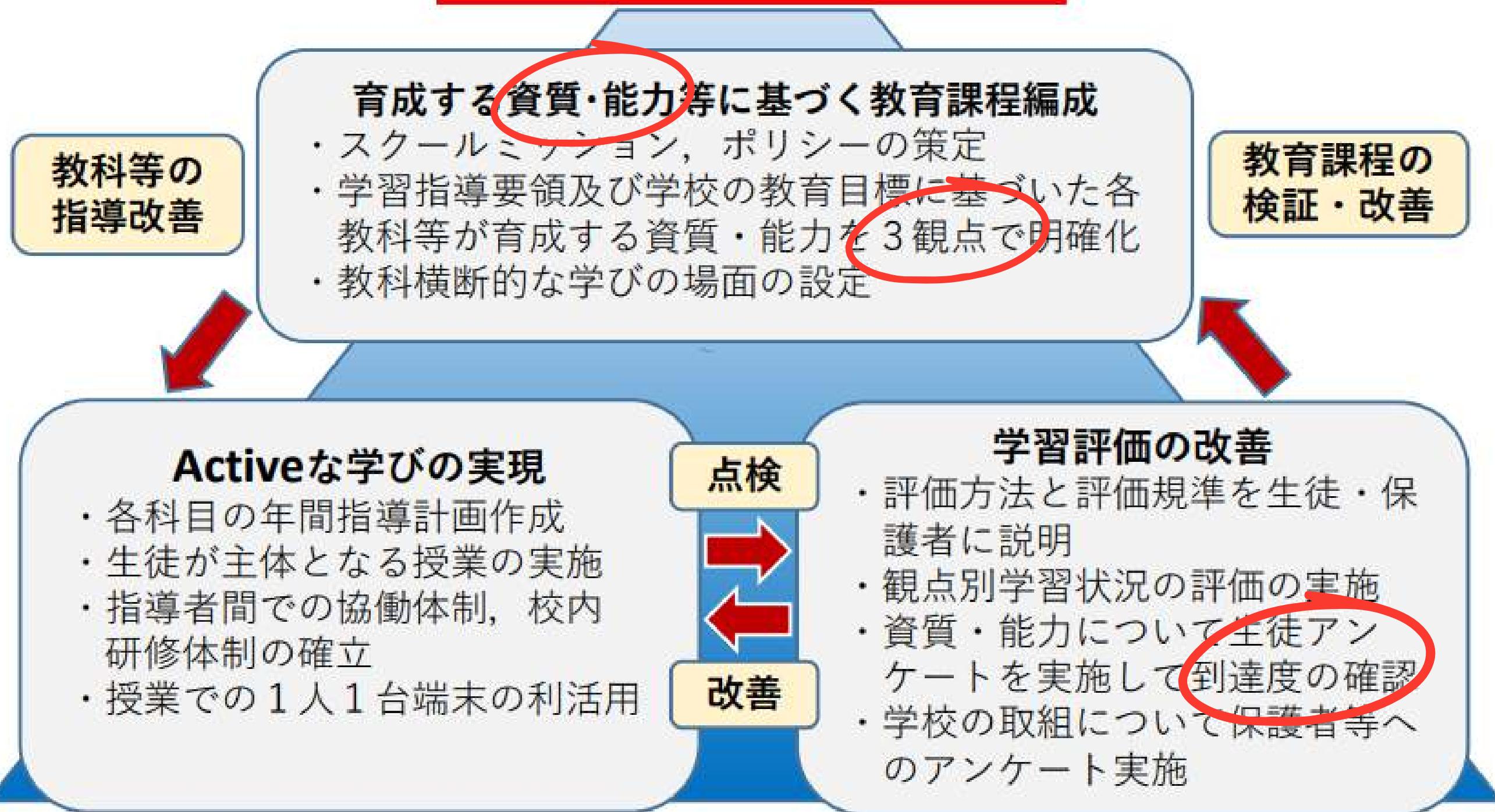


地域学校協働活動

『目標』や『ビジョン』
の共有

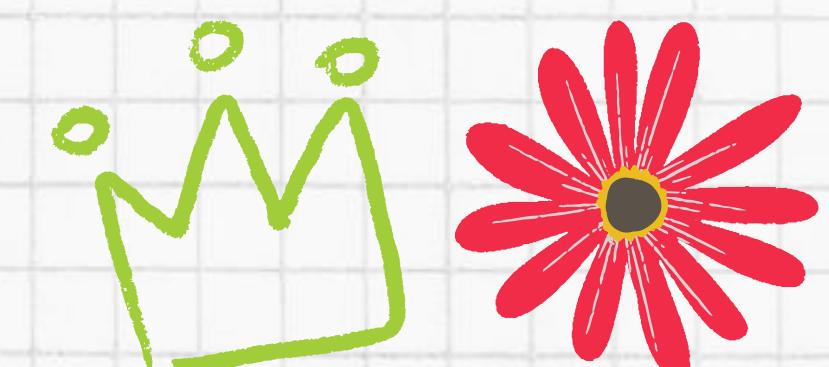
「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現!

具体的な取組内容



汎用的な
資質・能力の育成

具体的な
3観点の授業目標



新しい「学習指導要領」の「資質・能力の三つの柱」

① 生きて働く知識・技能の習得

② 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

③ 学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

3つの資質・能力に対応する3つの観点

① 「知識・技能（技術）」

② 「思考・判断・表現」

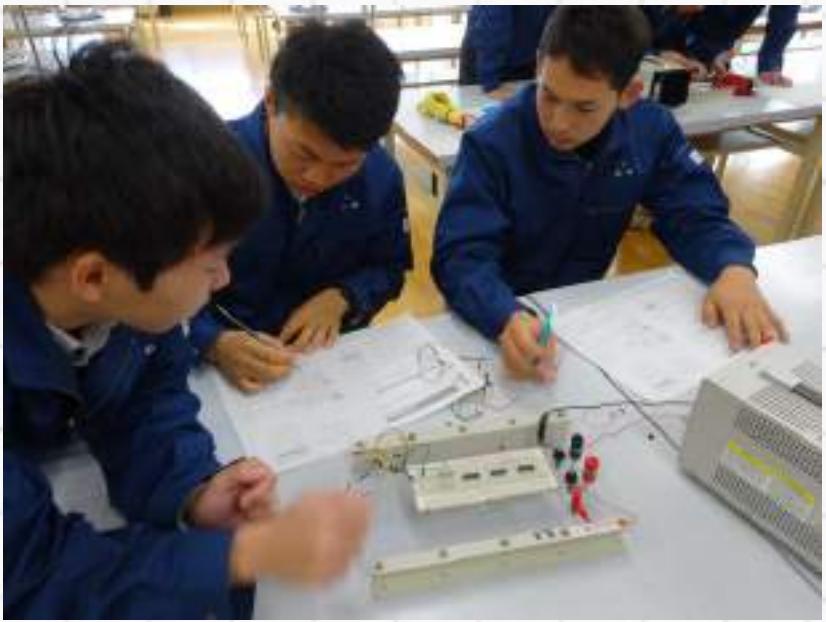
③ 「主体的に学習に取り組む態度」

この3つの観点から授業での評価を行い、
資質・能力の育成につなげます。



甲府工業高校が 育成を目指す資質・能力

- ①課題発見力 ②論理的思考力
- ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力
- ⑥外国語（英語）活用力 ⑦創造力
- ⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力
- ⑩主体性（学びに向かう力） ⑪発信力



抽象的・汎用的な 資質能力の育成を 具体的な授業目標 で目指す。

例えば、「数学Ⅲ」の場合。
生徒に身につけさせたい資質・能力のひとつ
「数学Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を基盤として、
極限・微分法・積分法に関する概念や法則を
理解し、公式などを用いて処理することができる。」

↑ 適切に自己評価するのが難しい…

授業の目標で
具体的に
自己評価しよう。



自己評価しやすい！

- ・さまざまな関数の極限を求めることができる。
- ・公式を用いて、微分することができる。

校訓:質実剛健 信条:技術者となる前に人間となれ



山梨県高等学校学力向上プロジェクト

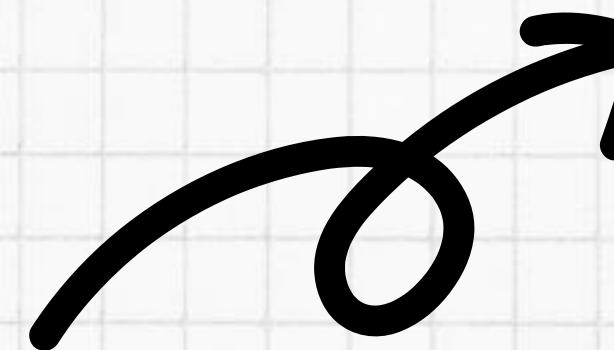
の

未来を拓く

Active School Kai Project

汎用的な 資質・能力の 自己評価

到達度を確認しながら
授業と指導を改善！



具体的な 3観点の授業目標の 自己評価

- ① 「知識・技能（技術）」
- ② 「思考・判断・表現」
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」

B
授業がちょうどいい。 ❤️

A
授業は簡単。 🎵

C
授業が難しい…

↓↓ 数値化

電子に関する知識・技術を
体系的・系統的に理解する
とともに、関連する技術を
身につけている。

電子技術に関する
課題を発見し、
電子技術者として
倫理観を踏まえ、
合理的かつ創造的に
課題を解決できる。

電子技術者として
豊かな人間性を身につけ、
よりよい社会の構築を目指して
自ら学び、
産業の振興や社会貢献に
主体的かつ協働的に
取り組むことができる。

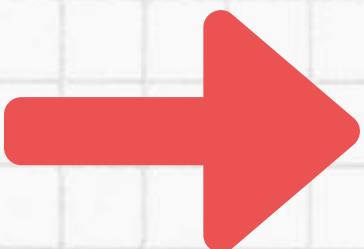


山梨県学力向上計画の 「身につけさせたい資質・能力」

電子科3年の 科目「通信技術」 の授業と評価の例

本校の生徒が自己評価する
資質・能力につながる評価規準
(学びの目標)

授業の具体的な内容で示して
授業の学びの成果としての
自己評価がしやすいように工夫！



電波の伝わり方が
周波数により異なること、
移動通信における
多元接続の種類と原理について
理解している。

各種のアンテナび形状と性質
およびAM受信機とFM受信機の
機能などを比較しながら
説明することができる。

身近にあるアンテナや
携帯電話などの
移動通信システムは
どのように構築されているのか
などについて
関心をもっている。

「社会に開かれた教育課程」の実現

ひとつ前のページの授業と評価の例で、

「このような資質・能力を身につけるために、
このような目標で学んでいる甲府工業高校の生徒は、
私たちの地域の課題を解決する人材になってくれる。」

と、思っていただけましたか？

「社会に開かれた教育課程」の実現

教えてください。
地域の皆様が
目指す未来を。



三
イコール



コミュニティ・スクールで
お互いへの貢献 「win-win」 の絆が
可能になります。

知ってください。
甲府工業高校が
目指す教育を。

次ページからの内容

令和6年度 山梨県学力向上計画報告書 1学年 2学年 3学年 の各ページ

報告書は、本校作成の書式ではなく県指定の書式です。
スマートフォンよりパソコンでご覧いただく方が、
文字をお読みになりやすいかと思います。



「山梨県学力向上計画報告書」は、
令和6年度末に
各県立高校のホームページで
公開されていますが、
各高校が育成を目指す資質・能力、
授業の難易度設定等は異なるため、
各高校間で数値を比較できる資料ではありません。

本校は、授業の観点別評価を活用し、A：5・B：4・C：1で数値化しています。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校	
全・定・通	全	学年	1	在籍生徒数 275 名
教育目標 (学力に関するもの)		①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力 ⑥外国語(英語)活用力 ⑦創造力⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力 ⑩主体性(学びに向かう力) ⑪発信力		
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		1 社会が必要とする人間力を身につけた人 2 基礎的・基本的な学力を身につけた人 3 健全な心と強い体を身につけた人 4 新しい時代に対応できる力を身につけた人		
各教科の取組				
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	美社會に必要な常用漢字の読み書きや、語句の意味を文章の中で理解して語彙を豊かにしたりすることができる。	4	4.4	昨年度、中間評価時の単元「古典を学ぶ意義を考えよ!」では、「枕草子」の理解の場面で、古典常識の知識が持続されやすくなる解釈となり、思判表につないで課題をあつた。今年度は、「格物の「構図」「文脈」「絆」「意味」」等について、ICT活用して動画や画像から理解できる授業改善ができた。次年度へ引き継ぎたい。
	文章の種類を踏まえて、内容的確に捉えることができ、自分の知識経験を結びつけて表現することができる。	4.1	4.4	昨年度、中間評価時の単元「古典を学ぶ意義を考えよ!」では、「説教」の「古事記」「伊勢物語」等で筆頭である「枕草子」について、单元を一つすることによって従来よりも深く理解して思考を深める授業を行った。今年度は、複数教材で単元をつくり、思判表で総括する授業を改善した。次年度へ引き継ぎたい。
	授業で主体的に取り組んだ経験を記録し、経験を振り返しながら、今後の社会や人生での創造に活かすことができる。	4.2	4.1	「和漢混交の英語を楽しみながら、単語文部曲で描かれた物の心情を読み取る」では、自由進度で学習の区切りでForsmによる成績の自己評価を行い、生徒が自身の主体性(自己調整)を確認できると評議会を引き継ぎた。昨年度は、政治の歴史と文化、クルーフィー比較などを作成させながら、授業展開を改善した。次年度も教員指導のグループ学習に取り組みたい。
地公	歴史を通じて過去から現在までの流れを身に付け、現代社会で起っている課題を理解する。	4.1	4.2	昨年度は、「世界の行政制度と日本の行政機構」の単元で、他校と比較しながら、より広く政治の実現に向けた考え方を学びました。「新入生懇親の式典」では、会場の運営や、より良い学生会実行委員会ために必要な権限をPadletで共有して、次年度も教員指導のグループ学習に取り組みたい。
	現代社会で起きている課題をグローバルな視点で分析し、解決に向けた方策を考えることができる。	4.1	4.3	昨年度は、「世界の行政制度と日本の行政機構」の単元で、現在と歴史を比較せながら学習させた際、教員からの感想が多かった。今年度は、生徒主導で、グループで比較などを取り組むことで、授業展開を改善した。次年度も教員指導のグループ学習に取り組みたい。
数学	新聞やニュースを通じ日々変化する社会に关心を持ち、自分たちができる事を探求することができる。	4.2	4.2	授業内でも日本社会問題に関連した記事を読み上げ、読者の心の変遷を読み取ることで、授業を充実させた。昨年度は、「数学Ⅰ」の「直線と円」で、直線と円の接線を学びながら、実生活で発見するなどのアドワットする時間を設けた。次年度は、直線と円の接線をより詳しく学びながら、今後は講義を充実させることができたので期待を年次度引継ぐ予定。
	中学校数学における学習内容を基礎として、数学Ⅰに関する基本的概念や法則を理解し、公式などを用いて処理することができる。	4.9	4.2	「2次式」(式の変形)では、2次方程式の解を利用するが、考え方を今までと大きくしていまる生徒が多く、今度はグラフのイメージを強調した。次年度は復習をいたしました。授業改善ができた。次年度へ引き継ぎたい。
	数式や式を用いて変形したり、图形の性質や計算について論理的に考察し表現することができる。また、自ら作問で挑戦しようとしている。	4.7	4.1	「2次式」(式の変形)では、2次方程式の解を利用するが、考え方を今までと大きくしていまる生徒が多く、今度はグラフのイメージを強調した。次年度は復習をいたしました。授業改善ができた。次年度へ引き継ぎたい。
理科	標準試験を通して授業内容を振り返り、演習などを単元の理解度を再確認・改修しながら心掛け、問題解決に取り組むことができる。	4.2	4.3	標準試験による結果の振り返りをもとに、問題解決の手順を高め、演習による理解度の再確認・改修しながら心掛け、問題解決に取り組むことができた。
	身近に起こる科学的な現象を人間生活と関連させながら基本的な実験を通して、科学的探究の方法を身に付ける、より確かな知識や観察の手法を見だすことができる。	4.6	4.5	身近に起こる科学的な現象を人間生活と関連させながら基本的な実験を通して、科学的探究の方法を身に付ける、より確かな知識や観察の手法を見だすことができる。
	実験や観察によって、科学的に考験したことをレポートやポスターなどにまとめ、表現することができる。	4.1	4.4	身近に起こる科学的な現象を人間生活と関連させながら基本的な実験を通して、科学的探究の方法を身に付ける、より確かな知識や観察の手法を見だすことができる。
英語	身の回りに見られる様々な現象に关心を持ち、科学的に探究することができる。	4.5	4.4	身の回りに見られる様々な現象に关心を持ち、科学的に探究することができる。
	英語の音や語彙、表現、文法、言語の働きなどへの理解を深め、実際のコミュニケーションに必要な技能を身に付けることができる。	4.4	4.3	昨年度の取組みを引き継ぎ、1年生のLessonsでは個人編成で用いた表現を行って、将来の職業について述べさせた。典型的な会話形式で共有できることで文法的理解の度合いに有用であった。本プロジェクトの後も、これまでの見立てを引き継ぐこととする。
	日常や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について考え、判断し、表現することができる。	4.3	4.3	今年度も、1年生のLessonsでは個人編成で用いた表現を行って、将来の職業について述べさせた。各自の興味の内容があり、各自前段階で作品用いて授業アンケートを行ったところ、課題への関心もあった。今年度は昨年度の昨年度の年次度で評価を広げるために、次年度もICTを活用した授業をより多く実践したい。
芸術	主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図らうとすることができる。	4.6	4.3	「主体的」の学習を「取り組む態度」をテーマにした上で、自己評価するところ難しかった。以前指導主導型で「主体的」の学習を「取り組む態度」を理解するに苦労するところであったが、今年度は「取り組む態度」を理解するところ難しかった。
	芸術の各分野について体系的に理解しているとともに、関連する技術、鑑賞力を身に付けていく。	4.5	4.6	生徒同士で意見交換して、表現者に求められる感性を身に付けて、創造的に解決し、表現する力を身に付けていく。
	身の回りに見られる様々な芸術に关心を持ち、探究することができる。	4.6	4.6	身の回りに見られる様々な芸術に关心を持ち、探究することができる。
家庭	人の一生と家族、家庭、子どもや高齢者との関りと福祉・衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。	4.5	4.4	中間評価の「身の周りの社会」の授業では、乳幼児の発達についての基礎的な知識の習得と、実習を通して積極的に乳幼児見どき関わることで、基礎的な技術を身に付けることができた。次年度も、幼稚園と連携して「社会に開かれた教育課程」を実施していく。
	学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	4.4	4.4	中間評価の「身の周りの社会」の授業では、乳幼児の発達と生活の実習を通して、心に寄り添う技術を身に付けることができた。次年度も、社会と関わる体験的な学習を重視して、家庭や地域でのコミュニケーション力を育成したい。
	家族や社会への共生を目指し、生活の充実や向上を図る能⼒と実践的な態度を育てる。	4.6	4.5	今年度も、身の周りの社会で、乳幼児の発達と日常生活の実習を通して、心に寄り添う技術を身に付けることができた。次年度も、社会と関わる体験的な学習を重視して、家庭や地域でのコミュニケーション力を育成したい。
保体	基本的な体力を身につけ、自己に応じた目標設定、練習方法の選択と実施、新たな目標設定等の過程を習得する。	4.5	4.4	今年度も、「持久走」(競技)では基礎的な体力を身につけた。本プロジェクト終了後も、この年間の授業改善で培った指導方法を引き継ぎ、さらに改善を図って生徒の自己評価を高めた。
	自己の仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘し、課題解決の過程を踏まえて仲間と共に課題を発見する力を養う。	4.5	4.4	今年度も、「持久走」(競技)では基礎的な体力を身につけた。本プロジェクト終了後も、この年間の授業改善で培った指導方法を引き継ぎ、さらに改善を図って生徒の自己評価を高めた。
	体力、技術を向上するとともに、課題や挑戦を大切にして危険予測をしながら仲間と共に協調性を養う。	4.7	4.6	今年度も、「持久走」(競技)では基礎的な体力を身につけた。本プロジェクト終了後も、この年間の授業改善で培った指導方法を引き継ぎ、さらに改善を図って生徒の自己評価を高めた。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
機械	義務教育基礎における学習内容を基礎として、機械に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.1	4.2	工業技術基礎では、基礎的な知識・技術を身に付けることができた。3年間の本プロジェクトに取り組み、授業改善を図ることで、来年度についても基礎的な知識・技術をしっかりと身に付けることができるよう、丁寧な授業を行いたい。
	機械技術が社会に果たす役割を理解し、機械分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.3	4.2	生徒は、工業技術基礎にて機械分野を取り巻く諸課題について、理解する場面がなく、実習の中でやっていくことが、昨年度の課題であった。今年度に取り組んだ実験の改善が、来年度に引き継がたい。
	機械技術者として豊かな人間性を自ら育て、機械技術の発展に必要となる活動に積極的に取り組むことができる。	4.1	4.1	工業技術基礎では、協働作業でのづくりを行って、主体的に対話を実習になり、豊かな心地良さ者に協力できる人間性を養うことができた。次年度も、「工業研究プログラム」での教科横断的な学習として、生徒の主体的な取り組みと対話を機会に大切にしていく。
電気	義務教育段階における学習内容を基礎として、電気にに関する基本的な知識・技術を理解している。	4.5	4.7	今年度も、生徒は電気回路における基本的な知識・技術に対する理解が豊かであることがわかった。1年次の授業ではこれから学ぶ、機器や電力の応用の基礎となるのである。来年度以降も、2年次以降を意識したカリキュラム・マネジメント大切にしていく。
	電気技術が社会に果たす役割を理解し、電気分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.2	4.5	今年度も、生徒は特に基礎的な知識・技術を身に付けることができた。次年度は、「工業探求プログラム」を活かしたカリキュラム・マネジメント大切にしていく。
	電気技術者として豊かな人間性を自ら育て、電気技術の発展に必要となる活動に積極的に取り組むことができる。	4.5	4.7	電気技術が社会に果たす役割を理解し、電気分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。今年度も、生徒は電気回路における基本的な知識・技術に対する理解が豊かである。次年度は、「工業探求プログラム」を活かしたカリキュラム・マネジメント大切にしていく。
電子	義務教育段階における学習内容を基礎として、電子に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.6	4.6	今年度も、電気回路では、基本的な知識技術を身に付けることができた。次年度は、「工業探求プログラム」を中心としたカリキュラム・マネジメント大切にしていく。
	電子技術が社会に果たす役割を理解し、電子分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.3	4.3	今年度も、生徒は半導体などの電子技術を理解し、技術者として自覚を持つことができる。次年度は、「工業探求プログラム」を中心としたカリキュラム・マネジメント大切にしていく。
	電子技術者として豊かな人間性を自ら育て、電子技術の発展に必要となる活動に積極的に取り組むことができる。	4.5	4.4	電子技術が社会に果たす役割を理解し、電子分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。今年度も、生徒は電子技術に対する理解が豊かである。次年度は、「工業探求プログラム」を活かしたカリキュラム・マネジメント大切にしていく。
建築	建築技術の社会における基本的な知識・技術を理解している。	4	4.1	木造建築について、柱や柱(ばね)などの建築用語を確認した。また、部品の位置や名前、寸法(ばんばく)なども確認した。また、部品の位置や名前、寸法(ばんばく)なども確認した。他の建築の部品との間違も確認した。
	建築技術の社会における役割を理解し、建築に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.1	4	特に構造工法では、木造大木梁の動画を視聴し、建築物が社会にたらす影響等についてCTC技術により大木梁の動画を視聴し、建築物が社会にたらす影響等について、一定の表現ができるようにした。
	建築技術者として、豊かな人間性を育て、建築技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.2	4.1	特に骨の力で建物を倒さない危険があることを学んだ。建築物が骨の力で建物を倒さないことを確認した。これにより、架橋の考え方なども説明できるようになった。
土木	義務教育段階における学習内容を基礎として、土木に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.1	4	実際に現場に出でて学びで学ぶ。知識・技術を理解し、技術者として成長することができる。生徒が、それまで見えていたことのない知識を身に付けていくために、知識の習得について、形態的評価を活用して改進改善を組み入れた。次年度も、繼續していく。
	土木技術が社会に果たす役割を理解し、土木分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.3	4.1	道路や橋等を用いて測量してどこに作るか土木技術が必要になる。生徒は、社会に果たす役割を理解し、技術者として自覚を持つことができる。次年度も、土木分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。
	土木技術者として豊かな人間性を育て、土木技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.3	4.3	測量技術の発展は生活に豊かにするだけでなく、安全もつながる。将来、現場に出でても測量技術者はいかに豊かにするかを確認していく。次年度も、「工業探求プログラム」での「テクノジーの力」の学習内容を通して学習せたい。
総探	道実表現に向けて、身に付けるべき知識や技能を明確に把握できる。	—	4.4	今年度は、「工業探求プログラム」を導入し、株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、道実表現に向けて身に付けるべき知識や技能を明確に把握する。次年度も、「工業探求プログラム」を活用して、教材の説明で株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、道実表現に向けて身に付けるべき知識や技能を明確に把握する。次年度は、株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、道実表現に向けて身に付けるべき知識や技能を明確に把握する。
	自分の考え方の確にまとめ、判断し、発表することができる。	—	4.1	「工業探求プログラム」を通して、教材の説明で株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、道実表現に向けて身に付けるべき知識や技能を明確に把握する。次年度も、「工業探求プログラム」を活用して、教材の説明で株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、道実表現に向けて身に付けるべき知識や技能を明確に把握する。
	課題の解決に向けて、社会活動に貢献する姿勢を身に付けることができる。	—	4.3	次年度は、株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、教材の説明で株式会社ゼンジニアリングの授業を活用して、道実表現に向けて身に付けるべき知識や技能を明確に把握する。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%: 小数点第1位まで)	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた	①強くそう思う ②そう思う	98.1% 97.3%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた	①強くそう思う ②そう思う	97.5% 98.4%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた	①強くそう思う ②そう思う	97.4% 98.4%
ノート等で授業の記録をすることができた	①強くそう思う ②そう思う	94.1% 94.3%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた	①強くそう思う ②そう思う	87.1% 86.5%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた	①強くそう思う ②そう思う	90.9% 91.8%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた	①強くそう思う ②そう思う	85.5% 85.9%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた	①強くそう思う ②そう思う	98.4% 98.8%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)	回答数
教育課程・授業内容は、生徒や社会のニーズに応えたものになっている。	3.23
わざわざ授業が行われている。	3.41
評価は、様々な観点から公正かつ公平に行われている。	3.30
保護者が、授業を参観する機会がある。	3.23
就職試験や入試対策として、課外・補習授業等の機会が設けられている。	3.45
5段階評価の平均値 回答数652名 / 758名中 (回答率 86%)	

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)	回答数
本校は部活動が活発であり、授業以外の活動でもコミュニケーションの質・能力を高めている生徒が多い。また、工業高校であり、入学時からテクノロジーの進化に肯定的で、ICT活用に心配のない生徒が多い。それらについての項目は、授業アンケートにおいて、1学年から高い自己評価であり、その自己肯定感が3年間の学年で維持されている。教員の見取りとしては、生徒のメタ認知による自己肯定感の数値よりも、学年が進むにつれて、生徒の自己肯定感が高まっている。また、生徒の自己肯定感が学年とともに、傾向とともに高まっている。そこで、本校の教育内容と成果を、地域社会の方々に直接感じていただき、「社会に開かれた教育課程」へつながる、コミュニケーション・スクールとなる次年度の目標である。	3
今年度も、「持久走」(競技)では基礎的な体力を身につけた。本プロジェクト終了後も、この年間の授業改善で培った指導方法を引き継ぎ、さらに改善を図って生徒の自己評価を高めた。	2
自己の仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘し、課題解決の過程を踏まえて仲間と共に課題を発見する力を養う。	2
体力、技術を向上するとともに、課題や挑戦を大切にして危険予測をしながら仲間と共に協調性を養う。	2

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)	R6中間	R6期末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う、②そう思う	96.7%	97.5%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う、②そう思う	97.8%	98.6%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う、②そう思う	98.1%	98.8%
ノート等で授業の記録をすることができた。①強くそう思う、②そう思う	95.3%	96.4%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができます ①強くそう思う、②そう思う	86.4%	86.5%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う、②そう思う	91.5%	91.8%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う、②そう思う	87.1%	87.8%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う、②そう思う	97.5%	97.6%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

数育課程・授業内容は、生徒や社会のニーズに応えたものになっている。323

教育課程・授業内容は、主徳・社会の二つに分類したものにわかりやすい授業が行われている。341

評価は、様々な観点から公正かつ公平に行われている。3.30

評価は、様々な観点から公正かつ公平に行われている。3.30
保護者が、授業を参観する機会がある。3.23

就職試験や入試対策として、課外・補習授業等の機会が設けられている。345

5段階評価の平均値 回答数652名／758名中(回答率86%)

◎校園計画◎平均地盤面積数662名／100名（四倍率66.7%）

[View Details](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度)

本校は部活動が活発であり、授業以外の活動でもコミュニケーションの質・量

本校は部活動が活発であり、授業以外の活動でもコミュニケーションの質質・創造性の進化に肯定的で、ICT活用に関心のある生徒が多数派である。それら

古シーザーの進化に肯定的で、ICT活用に関する生徒が多数派である。それと併せて、自己肯定感は高いものであり、その自己肯定感を3年間の学びで維持している。数回の見取り図では、

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）
本校は部活動が活発であり、授業以外の活動でもコミュニケーションの質・量・能力を増している生徒が多い。また、工業高校であり、入学時からテクノロジーへの自信・肯定感で、ICT活用に関する関心のある生徒が多数である。それらについての項目は、授業アンケートにおいて、「1年生から高い自己評価」であり、自己の肯定感で、ICT活用に関する関心のある生徒が多數である。それらについての項目は、生徒の学び知識による自己肯定感の数値よりも、学年が進むに従い、生徒の自己肯定感が学びの成果を伴った妥当な自己評価になっているなどに注目した。このプロジェクト数値の数値は、あくまでも生徒の自己評価であるため、こ観になった地域社会の方々には、本校の学園祭や課題研究発表などの機会に、ぜひとも来校いただきたい。そして、本校の教育内容と成果を、地域社会の方々に直接感じていただき、「社会に開かれた教育課程」へつなぐことが、コミュニティ・スクールとなる次年度の目標である。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校	
全・定・通	定	学年	3	在籍生徒数 242 名
教育目標 (学力に関するもの)		①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力 ⑥外国語(英語)活用力 ⑦創造力⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力 ⑩主体性(学びに向かう力) ⑪発信力		
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		1 社会が必要とする人間力を身につけた人 2 基礎的・基本的な学力を身につけた人 3 健全な心と強い体を身につけた人 4 新しい時代に対応できる能力を身につけた人		
各教科の取組				
教科	身に付けさせたい資質・能力		中間評価	年度末評価
国語	社会がもたらす人間力を意識して、実社会に必要な国語の知識や技術を身につけ、状況に応じて適切な表現や言葉遣いを使い分けることができる。		4.5	4.6
	論理的思考力、コミュニケーション力、発信力を磨き、実社会に必要な知識や技術を身につけ、実社会における課題を見出し、問題解決力とコミュニケーション能力をもつて、課題研究への教科横断的な学びを図る。		4.5	4.5
地政	言葉がつづった「認識」を深め、読解に親しみながら、社会が必要とする人間力を身にさせ、言葉を通して他人や社会と関わりながら、新しい時代に対応していくことができる。		4.7	4.6
	私たちは、地図や本や周辺の地域及び世界の歴史について学ぶことが、私たち自身の人生や身近な地域社会に大きな影響を与えるからである。地図や本で世界の歴史や人々の生活様式について学習を深めた際、教員からの説明が多いかった。今年度は、生徒個々でグループや個人で比較表などを作成せなど、授業展開を改めていた。		3.9	4.3
数学	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化により、日本や周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。		4	4.1
	中学校社会科における学習の成果を生かし、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。		4	4.3
理科	数学Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を基盤として、極限・微分法・積分法による概念や法则を理解し、公式などを用いて処理することができる。		4.4	4.5
	牛乳は、復習やテストで、授業問題を提出するによって、進歩に必要な基礎力を培うことができた。進歩の専門科目の学習につながる知識を活用できる協働的な学びを一段階増やした。		4.6	4.6
英語	各単元において、事象を数学的に考察したことによって、問題解決の過程や結果に対する統一感をもつて、問題解決の過程や結果を振り返って統一感をもつて考察したりする。また、理解度を自己分析して作間に挑戦している。		4.6	4.7
	評議会を通じて授業内容を取り返し、演習や小テストなどで単元の理解度を再評価し、改善ようと心掛け、粘り強く柔軟に考え、問題解決の主体的に取り組むことができる。		4.6	4.7
芸術 1学年のみ	経験・仮説から問題の核心をつかみ、仮説を立てて実験を進め、得られたデータをもとに解釈を行い、科学的な思考力や問題解決能力の向上につなげる必要を理解している。		4.3	3.9
	仮説を立て、データを収集し、それをもとに結論を導くプロセスを通じて、論理的思考をすることができる。		4.1	4.1
	実験を通して物理現象を観察し、データを収集し、解釈することを通して、実験的スキルを磨き、実験の設計や実施に必要な知識・技術等を習得している。		4.5	4.5
	日常生活に必要な単語、熟語、文法など、その意味や適切な使い方を理解できる。また、英語を使う上で、必要な文化的、社会的情景について十分に理解している。		4.1	4.2
	英語で情報や考え方などを適切な表現や応用的な表現を用いて書き、また伝えることができる。		4.1	4.1
	積極的な態度で言語活動に参加し、相手の状況に応じて実践的にコミュニケーションを主体的にとろうとしている。		4.2	4.1
家庭 1学年のみ			—	—
			—	—
保健	自らの基本的な体力に気付き、自己に応じた目標設定を行い高める。練習方法の選択、新たな目標設定等の過程を気付く力を高める方法を習得する。		4.3	4.4
	自分の仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘する。課題解決の過程を踏まえて仲間と共に課題を見出し、解決する力を養う。		4.3	4.4
	体力、技術を向上するとともに、課題や挑戦を大切にして危険予測をしながら合理的に解決を目指す。		4.5	4.5

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
機械	機械に関する知識・技術を体系的に理解するとともに、関連する技術を身につけていく。	4.4	4.7	「課題研究」では、設定した課題に取り組むための知識の深化・総合化を図る。暗記で終わらない学び、社会や人生で活かせる知識の使い方を習得せることに、次年度も注力したい。
	機械技術に関する課題を発見し、機械技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4.4	4.7	研究の成果を整理し分かりやすく発表することは、思考力、判断力、表現力等の育成や生徒自身の学習を促進する上で大変効果的である。次年度も言語活動の充実を図ることに、発表の機会を設けたい。
	機械技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4.5	4.7	課題解決の過程で、ものづくりにおける「計画→実行→評価→改善」の評価サイクルにより、「自己調整・手段がない」「やり直し・課題解決の達成へ向かう力を育成できた」。次年度も工業系としての専門性から、求められる貢献・能力を育成したい。
電気	電気に関する課題を発見し、電気技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4.2	4.3	電力の使われ方や電気機器の仕組みについて基本的な考え方や知識・技術を身につけさせていた。次年度は協働的な学びを一層増やし、実社会で活きる力を身につけさせたい。
	電気技術に関する課題を発見し、電気技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4.1	4.3	三相誘導電動機と三相同期発電機の特性について、違いを説明することで課題点を見出すことができた。次年度は、グループ協議を通じて解決策を考える力を身に付けたい。
	電気技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4.4	4.4	グループワークにおける調べ学習や企業見学を通して、電気技術者の仕事場を培うことができた。次年度は個別最適な学びの場を実現したい。
電子	電子に関する知識・技術を体系的に理解するとともに、関連する技術を身につけていく。	4.1	4.1	通信に関する現象について基本的な知識と技術を身につけさせることで、次年度は、よりICTを活用した個別最適な学びを実現したい。
	電子技術に関する課題を発見し、電子技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4	4.1	電子信号の構成や像を復元するために必要な信号の仕組みや特徴を説明することで、表現する力が身につけることができた。次年度は、グループ討議などを通じて他の者の意見を聞く・解説をまとめて協働的な時間を増やしたいと考えている。
	電子技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4.2	4.2	自分たちアラカルト連携電源などの移動式自動システムなどの構成されているか、生徒のなかでアラカルト連携電源などの移動式自動システムの構成を設定し、グループ協議を通じて主体的に取り組む機会が増えた。次年度もこれを継続していきたい。
建築	建築に関する知識・技術を体系的に理解するとともに、関連する技術を身につけていく。	4.5	4.5	各種建築物に向けた基本的な知識と、計画する際に必要な技術を増やすことができる。次年度はさらに協働的な学びを増やすといきたい。
	建築技術に関する課題を発見し、建築技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4.3	4.5	各種建築物を計画する際の課題点を見つけ、その解決策を適切に表現する力を身につくことができた。次年度は他の意見も参考し、解決策を共に表現できる協働的な機会を増やしたい。
	建築技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4.3	4.7	調べ学習やグループワークを通じて、主体的に取り組む姿勢を習慣づけることができた。次年度は自らの学習を振り返る時間を増やしていくたい。
土木	土木に関する知識・技術を体系的に理解するとともに、関連する技術を身につけていく。	4	4.1	課題研究「材料」では、人によるインプット整備が身边にあることを体験する過程で、施工の難しさや課題などを理解し、その理解を思考・判断・表現へつなげた。次年度も体験を大切にして、知識を習得させたい。
	土木技術に関する課題を発見し、土木技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	3.9	4.1	構造物を完成させるまでは、手段と工夫が無駄に存在することを知り、最善の選択しながら改善する力を身につけることができた。次年度は、知識・技術の学習・指導・実習などを通じて、実感できる手段で自己指向した。
	土木技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4	4.1	土木技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
総探 1学年のみ	—	—	—	研究会のままで、人はいかがやめて伝える資料作成に取り組む中で、生徒は勘能学習を活かして「自己調整」を図っていく。良いまとめて発表による、「祐がり」を取り組む支援を、次年度も大切にしたい。
	—	—	—	—
	—	—	—	—

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)	R6中間	R6期末
授業の始めに授業の目標を確認することができた	①強くそう思う ②そう思う	96.3% 96.6%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた	①強くそう思う ②そう思う	95.5% 95.4%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた	①強くそう思う ②そう思う	98.2% 98.1%
ノート等で授業の記録を行うことができた	①強くそう思う ②そう思う	94.2% 94.3%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた	①強くそう思う ②そう思う	85.2% 85.5%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた	①強くそう思う ②そう思う	91.1% 92.9%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた	①強くそう思う ②そう思う	86.1% 86.5%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた	①強くそう思う ②そう思う	97.1% 97.7%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
教育課程・授業内容は、生徒や社会のニーズに応えたものになっている。3.23
わかりやすい授業が行われている。3.41
評価は、様々な點から公正かつ公平に行われている。3.30
保護者が、授業を参観する機会がある。3.23
就職試験や入試対策として、課外・補習授業等の機会が設けられている。3.45
5段階評価の平均値：回答数652名／758名中（回答率 86%）

授業アンケート等を踏ました総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
本校は部活動が発展であり、授業以外の活動でもコミュニケーションの質質・能力を培っている生徒が多い。また、工業高校であり、入学時からテクノロジーの進化と共に、ICT活用に关心のある生徒が多数派である。それについての項目は、授業アンケートにおいて、1学年から高い自己評価であり、その自己肯定感を3年間の学びで持続している。教員の見取りとしては、生徒のメタ認知による自己肯定感の数値よりも、生徒が進むに従い、生徒の自己肯定感が学びの成果を伴った妥当な自己評価になっていることに注目したい。このプロジェクトの数値は、あくまで生徒の自己評価であるため、ご覧になった地域社会の方々には、本校の学園祭や課題研究発表などの機会に、ぜひともご来校いただきたい。そこで、本校の教育内容と成果を、地域社会の方々に直接感じていただき、「社会に開かれた教育課程」へつなぐことが、コミュニケーション・スクールとなる次年度の目標である。

**THANK YOU
VERY MUCH**